

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 28日

事業所名 セカンドプレイス(株) RISE

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5			
	2 職員の配置数は適切である	5			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	段差に対して通常以上の注意を払う利用児はいない。	角等に注意を払える視覚的支援を取り入れて、注意を促します。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		ウイークリー業務として、記録の点検を行っている。	項目を充実出来るように記録の研修を行う。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	3	イベント開催時などに、保護者様の意見をお聞かせ頂き、支援等に反映させている。	更なる充実を図る。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		ホームページに公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	同会社内で定期的に評価し合っている	今後は第三者からの評価・指導が受けられるような機会を設ける。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5			更なる充実を図る。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	2	新規ご利用時と、年に1回のアセスメントを行う。	アセスメントの結果をより計画に活かす。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	2	主に社会性を重視してS-M評価を取り入れている。	より深く利用児を理解できるツールの検討を行う。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		支援者全員で立案している。	今後は業務の効率化を図る為に、グループ分けを行い立案する。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		プログラム立案時に全員が意見を発信するルールがある。	グループが固定化して単純化しないように、半年ごとにグループ編成を変更する。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5			長期休暇の時間を有効に充実した支援内容を検討する
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる放課後等デイサービス計画を作成している	5			現計画より具体的に支援計画を立案していく。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		時間を優先して設定し、必ず時間を確保するようにしている。	継続して行う。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		時間を優先して設定し、必ず時間を確保して振り返りをするようにしている。	継続して行う。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		PDCA記録と同じ様に、ウイークリー業務で点検している。	継続して行う。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		モニタリングには必ず参加している。	更なる充実を図る。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	5			報酬改正に合わせて見直していく。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		会議に参加する技術を高めるために、研修を受けている。	更なる充実を図る。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		モニタリング参加時や送迎のお迎え時を有効に使いお話を聞いている。	情報交換ツールなどの検討を行う。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	×	×		
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5		園から小学校に移行する時に、双方積極的に情報共有している。	継続して行う。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5		放デイ利用から障害福祉サービス利用への移行はまだなく、今後も予定はない。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5		センター主催の研修に必ず参加している。	継続して行う。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	児童クラブのスタッフが見学に来られて、事業内容と支援を理解してもらう機会があった。	今後はRISEから児童クラブを訪問するなどして、普段の様子を共有していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5			継続して参加する。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時や連絡帳を利用して共通理解を図っている。	更なる充実を図る。
保護者 への説明 責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		5		放デイ児の保護者に必要なペアレントトレーニングの研修を受けて、保護者様に提供する。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		新規契約時に書面での説明を行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		送迎時や定期的に面談を設定して要望を聞き取り、必要に応じてチームで対応を検討し、保護者様に伝えている。	更なる充実を図る。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		支援の参観日、親子カフェなどを開催している。	更なる充実を図る。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		組織的に整備している。また、迅速に対応出来るように全支援者で周知し、適切に対応出来るように、研修や自己研鑽に努めるチームづくりをしている。	更なる充実を図る。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		SNSを活用し活動の目的・様子を発信している。	今後も定期的に発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	5			更なる充実を図る。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			更なる充実を図る。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		5		感染症流行を懸念して地域住民の招待に至っていない。今後の動向により検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	避難訓練・感染症対策の吐物処理方法や救急対応(AEDの使用)のデモストレーションを行っている。	マニュアル表記を確立させ、全支援者とも等しく正しく処理・対応出来るようにする。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		利用児と一緒に避難訓練を実施している。	更なる充実を図る。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2		マニュアル表記を確立させ、全支援者とも等しく正しく処理・対応出来るようにする。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5		現在案よりも具体的に支援計画に立案していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	管理者が把握している。	アナフィラキシーショックのリスクが考えられる場合には、保護者と連携して医師からの指示書を受ける。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ウイークリー業務として、お互いに点検を行い意識を高めている。	更なる充実を図る。